

岡山県税制懇話会（第3回会議）議事概要

- 1 日 時：平成29年9月28日（木）10:30～
- 2 場 所：県庁3階第2会議室
- 3 出席委員：石井清裕委員、岡本輝代志委員、千葉喬三委員、釣雅雄委員、
内藤はま子委員、平島千江子委員、藤木茂彦委員、藤原裕里子委員
- 4 その他：傍聴人なし

【議事概要】

- ① 会長が懇話会の原則公開について確認

1 岡山県税制懇話会報告書（案）について

- 税務課長から、岡山県税制懇話会報告書（案）について説明

（審議）

会長

報告書（案）については、過去2回の会議で配付された資料がベースになっている。了解していただいた内容もあるが、新たに資料が加わっている部分もある。そういったことも踏まえ、皆様の御意見をいただきたい。

（1）全体の構成について

（特に発言なし）

（2）「はじめに」、「1 導入の効果」について

委員

なぜ税方式にしたか、を最初の方に少し入れておいた方がよいのではないか。

「これまで10年か15年か、税でやってきた実績がある」という書き方でもよいので、「これまで税でやってきた、うまくいっている」というデータもあり、次に繋がってくると思うので、少し加えられないか。

税務課長

2段落目に「税という拘束力のある形で、15年間やってきた」という趣旨の記述を加えるということでしょうか。

会長

それでよい。

これ以外に、「はじめに」で、修正意見はあるか。

（特に発言なし）

(3) 「継続の必要性」、「今後の方向性」について

委員

「今後の方向性」の一番下の段に、「積極的に行うべきである」とあり、基金のところにも「留意すべきである」とか、制度の見直しも、「行うべきである」と記述がある。

「べきである」というのは誰かに対して「そうしなさい」ということであるが、この「誰か」というのが誰なのか。

税務課長

23ページの懇話会設置要綱の第2条に事業について規定している。

県の独自税制に係る調査・研究を行い、成果を知事に報告するという一方で、懇話会の意見を知事に報告するという性格のものである。

総務部長

基本的に知事が懇話会から報告をいただき、これを知事の中で消化して、議会に提出していくという流れになる。

委員

知事に対する「答申」とまでは行かないが、「提案」という形を取っているということならば、この表現でよい。

会長

この点については修正なしとする。

委員

「鉱さいとガラス陶磁器くずが全国平均と比べて再生利用率が低い」という記述があるが、具体的にはどうするのか。

循環型社会推進課長

まず、なぜ全国と比べて低いのか、という点を具体的に調べていく必要がある。

これまでは、全般的にリサイクルを進めようということで施策を進めていたが、今後は、廃棄物の種類を絞る。

ただし、リサイクルなどは県ではなく、排出事業者や処理業者が行うものであり、こういった業者を誘導していく必要があると考えている。

委員

この文章の趣旨は、周知の工夫をしようということと、事業の見直しを積極的に行おうという異なる文章が一つにまとまっている。後半の事業の積極的な見直しというのは強調しておくべき視点ではあると思うので、分けて、読みやすくした方がよい。

会長

方向性を考える場合、事実の部分がこうなっている、だからこうなんだ、というふうに分けた方がよいということか。

しかしこれは大きな修正である。

委員

段落ごとに事実の評価をしている部分と、方向性の部分とがあるので、その部分をうまくつなげばどうか。

循環型社会推進課長

今後の方向性として、周知の工夫と、事業の見直しということでこれまでの税制懇話会で意見をいただいているので、事務局としては、これからやることをひとまとめにした方がよいという判断で、第2回の会議での意見を踏まえて、まとめて記述している。

会長

第2回の会議での意見を踏まえてと言われると、トーンが下がるが、表現の話ですから、誤解されても困る。

もう一度会議を開催するわけにもいかないなので、今の意見を生かしながら、修正できるようにであれば、修正し、全員にお知らせするか、場合によっては私に一任していただくという形で、いかがか。

(一同了承)

会長

その他意見が無ければ、皆様からいただいた意見、修正箇所、追加箇所について、事務局の方からまとめて報告いただきたい。

税務課長

「はじめに」について、拘束力のある税というやり方で、15年間実施してきたという実績を強調する形で修正すること、使途事業の最後の段落の文章を分かりやすく修正すること、の2点である。

会長

修正については、私に一任いただきたい。

2 岡山県税制懇話会報告書（概要版）（案）について

○ 税務課長から、岡山県税制懇話会報告書（概要版）（案）について説明

（審議）

委員

3の使途事業は、足したら事業費の合計になるのか。
事例として平成24年度から28年度までの実績を挙げているという理解でよいか。

循環型社会推進課長

多くの事業を実施しており、主な事業のみを記載している。

委員

本文に書いていないが、(1)で排出量と最終処分量の2つの数字が出ており、これらの数値が大幅に下がっているということが分かるようになっている。

おそらくだが、排出量に占める最終処分量の割合は、さらに大きく下がっており、大量に排出したが最終処分にまで至らなかったと読み取れる。

平成14年では12.88%、平成27年度が5.84%と、最終処分に至らないよう、効率化されている数字がみられる。せっかくなので記述してはどうか。

循環型社会推進課長

本文との関係で少し難しい。

委員

本文との整合性が保てないのであれば記述しなくてよい。

会長

概要版だけに入れてしまうとこれが一人歩きしてしまうので、この修正はなしということをご了解いただきたい。

ほかに御意見がなければ、この概要版案についてもお認めいただいたということにしたい。若干の修正については、私の方に一任いただきたい。

3 まとめ

会長

この報告書については、10月4日（水）に、私と副会長の方から、伊原木知事に報告させていただく。

～ 以後、総務部長、環境文化部長あいさつ、事務連絡後、閉会。～